

自 分 を 見 つ め て

高学年 1 - 6】

体験的な活動を取り入れた事例

(1) **主題名** 自分のよさを高めていこう [1 - 6]

(2) **ねらい** 自分の特徴をよく知り、長所を伸ばそうとする意欲を高める。

(3) **資料名** 「自分を見つめて」

(4) **授業の展開例**

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 長所について話し合う。	自分の「いいな」と思うところはどんなことですか。	自分の長所について考え、本時の資料へとつなげていく。
展開	2 資料「自分を見つめて」を読んで話し合う。	<p>主人公のわたしは、自分のことをどう思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいな」と思うところは少ないけど、直したいところはたくさんある。 <p>友だちが書いてくれた紙を見た時、主人公はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなにいい所があるのかな。 ・自分では思っていなかったけど、友だちから見たらいい所だったんだな。 	<p>自分のよさに気付いていない、かなこであることをおさえる。</p> <p>友だちが書いてくれた自分の長所を知り、自分自身を見つめなおしている主人公の気持ちに共感させる。</p>
開発	3 友だちの長所に気付いたり、自分の長所を知る。	<p>グループの中の友だちの「いいな」と思うところをカードに書いて知らせてあげましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むずかしい曲なのに、くじけないで練習している。粘り強いよ。 ・困っていたら、声をかけてくれる。 ・掃除をいつも真面目にする人です。 ・トイレのスリッパが乱れいたら、きちんとそろえています。 	<p>友だちの長所をカードに書かせる中で、改めて友だちのよさに気付かせる。</p> <p>友だちが教えてくれた自分の長所を知ることで、その長所をもっと伸ばしていくよう意識をもたせる。</p>
	4 自分のことにについて振り返る。	友だちが書いてくれた自分の長所を読んで考えたことを書いてみましょう。	道徳ノートに書かせる。
終末	5 教師の説話を聞く。	これからも自分の長所を努力して伸ばしていくよう。	自分には自分にしかないすばらしさがある。他人と比較することなく、自分のよさを高めていくことが大切であることに気付かせる。

自 分 を 見 つ め て

先生が、

「『心のノート』を読んで、自分のいいなと思つてこらとこらや直したいところをこの用紙に書いてみましょう。」

と言われました。でも、私の手は鉛筆を持ったまま止まってしまいました。長所がなかなか見つからないのです。

私は、よく友だちから「かなちゃんは、はつきりものが言えるね。」と言われます。別に自分はそうは思わないけれど、友だちが間違つたことをしていたらその場で注意をするからかもしれません。

次は、直したいところです。私は、（あるある、直したいところはすぐある）と思いながらいつぱい書いていました。

すると、先生が、

「自分ではなかなか自分のよさに気づいていない人もいるね。これから班の中でおたがいのすてきなところ見つけをしてみようか。」と言われました。私は、班の友だち一人一人のいいところを考えながら書いていました。

私が元気がないと、よく声をかけてくれるやさしいよひりちゃん
ちょっと言い方はらんぼうだけど、おもしろいことを書いて明るくしてくれるよしおくん

忘れ物のほとんどないまいちゃん

友だちのことならわりとすらすらといふところが見つかるものだなあと思いました。友だちのいいところを書きながら、私はみんなからどう思われるのだろうと気になりました。

私のことが書いてある紙がまわってきた。そこに私は、

考えをまとめるのがうまい。
やさしい。

ねばり強い。

はつきりしていて正義感がある。

と書いてありました。

友だちが、「やさしい」と書いてくれたのは、問題がわからなかつたらよく教えてあげるからかな。「ねばり強い」と書いてあつたのにもおどろきました。私は図工が好きですが、作るのにとても時間がかかります。自分ではねばり強いと思っていなかつたけれど、友だちから見るとそうなのかなと思いました。今度からは図工だけでなく、他のこともねばり強くやっていきました。

いと思いました。

一番心に残つたのは「はつきりしていて正義感がある」ということでした。私は、みんなから「こわい」と思われていると感じていたけれど、そうではなかつたんだなと思いました。

これからも友だちが教えてくれた私の長所をのばしていきたいと思します。

活用に生かすための実践報告

自分を見つめて

1 主題の設定

- ・子どもたちは成長するにつれて自分を客観的にみたり、友だちと比べてみたりするようになる。自分のよさに気付き、自信をもって伸ばしていくこうとする児童もいるが、中には自分のよい所に目が向けられず、欠点の多いつまらない人間だと悲観的な見方をする児童もいる。そこで、自分自身をしっかり見つめ、他人と比べることなく自分のよさに目を向け、それを伸ばしていくことが大切であるということに気付かせたい。

2 指導過程の工夫

- ・グループで、お互いの長所を具体的に書かせる活動を取り入れる。そのことで、自分の長所を知ると共に、友だちの長所にも目を向けさせ、お互いのよさを認め合うことや高め合うことの大切さを考えさせたい。
- ・「心のノート」P 30 ~ 33 に「自分を見つめがきをかけよう」という項目がある。最初、自分のいいなと思うところを記入させ、友だちにカードを書いてもらった後、もう一度自分自身を見つめていくという方法もある。この他にも「自分向上プロジェクト」「こんな自分を変えたいな」などの項目もあるので児童の実態に合わせ、「心のノート」を活用したい。

3 発問の工夫

- ・自分のことを振り返る時、かなちゃんのような考え方をしていなかったかどうかについて考えさせ、自分が欠点だと思っていた所も友だちから見ると長所になっていることに気付かせたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

- ・自分では悪いところばかりと思っていたけれど、いいところを教えてくれたからうれしかったです。いいなと思われているところにもっとみがきをかけていくこうと思います。

・私は、「いやなことはいやと言って、発表もがんばろう」と努力していました。それを友だちが見つけてくれたので、とてもうれしかったです。

・最初、自分は短所の方が多いと思っていたけど、友だちに長所を見つけてもらったら意外にもたくさんあったのでおどろきました。友だちから見たらそうかもしれないけど、私はそんなに積極的ではありません。でも、せっかくそう見てくれているのだから、もっと発表したり仕事をしたりできるように自分なりにがんばっていこうと思います。

・算数や漢字のわからないところを教えてくれるのでやさしいと書いてありました。今まで当然のこととして教えていただけなのに、いいところだと思われていたのでうれしかったです。

5 実践者からの一言

・自分が気付かなかつたよさや、当たり前の行動だと思っていたことを友だちによさだと見つけてもらったことで、そのよさにさらにみがきをかけていくこうと自信をもった児童が多かった。

・自分では短所ばかりに目を向けていたが、意外と長所があったのに驚き、自分に対する見方が変わった児童、短所と思っていたけれど友だちが長所だと認めてくれ、それを伸ばしていくという思いをもつことができた。

（野々浜小学校 門井恭子）